

北九州市立医療センター

研修医 片山 由大 2016年12月

北九州市立医療センター初期臨床研修医2年目の片山由大です。地域医療研修プログラムとして12月に出水で研修させていただきました。

私は福岡県出身で高校まで福岡で生活し、大学生活6年間は高知に住んでいました。九州出身ですので、九州の各県には行ったことがあったのですが、出水市には今回初めて行かせていただきました。高速のインターチェンジを降りた時、「田舎だなあ」と思いましたが、関係者の皆様がたくさんの事を紹介し、教えてくださったので、出水の良さが分かり、楽しく充実した1か月間を過ごすことができました。

研修としては、高尾野診療所、野田診療所、上場診療所、出水保健センター、出水総合医療センターで研修させていただきました。高尾野診療所、野田診療所では人生初の紙カルテを経験させていただき、頸部エコー、心エコー、腹部エコー、上部消化管内視鏡など様々な検査手技を指導していただきました。往診や上場診療所での診察といったような医療者側からの積極的なアプローチを行うことによって、患者の満足度が上昇し、より密接な医師・患者関係を築くことができると感じました。また、上場に行かせていただいた際に、歩行者の方が挨拶してくださった姿を見て、地域のまとまりをととも感じました。

出水総合医療センターでは外科を中心に研修させていただきました。手術に参加させていただき、楽しい研修でした。また、医療安全管理室、感染対策室、地域医療連携室、臨床工学科、看護科、臨床検査室、リハビリテーション技術科でそれぞれ研修をさせていただきました。普段、あまり意識していない多職種の方々の仕事内容を実際に見学や体験させていただくことで、医療連携、チーム医療について改めて考え直すことができました。多職種の方々が支えあうことで現在の医療が行えていると実感しました。

今回の研修を通して、地域医療のすばらしさを感じることができたと同時に、地域医療を継続していくことの難しさを感じました。例えば、往診を求めている患者は多くいると思いますが、それに十分に対応できるだけの医療者の数が確保できていないだけでなく、現在往診を行っている先生も中高年の方が多く、往診を受け継ぐ新しい人材が必要となっています。研修が終了した医師は地元に戻る傾向が強いと思うので、その地域出身の医師を輩出する必要があると感じました。若いひとに医療職をアピールし、医療職を目指してくれるひとが多くなればと思います。

最後に、研修医に対して熱心に指導してくださった先生方や医療関係者の皆様に御礼申し上げます。今後地域に携わることがあるかもしれないので、その時には今回の研修で学んだことを活かしたら良いなと思います。